

# 看護学教育評価 評価報告書

受審校名 森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科

(評価実施年度) 2021 年度

(作成日 2022 年 3 月 11 日)

一般財団法人 日本看護学教育評価機構

## I. 総合判定の結果

(  適合       不適合       保留 )

認証期間：2022年4月1日～2029年3月31日

## II. 総評

森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科は、「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という大学の建学の精神に則り、「チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身に着けた人材の育成」を目的に（学則第1条）、看護学教育を行っている。

教育課程は、建学の精神、教育目的、ディプロマ・ポリシー（以下、DPとする）に一貫性があり、より専門的な学修へと発展する段階的な教育編成となっている。特に、教育目的の主軸となる「チーム医療」はDPに謳われ、大学の全学科共通科目としてカリキュラムに組み込まれ、他学科の学生と横断的に多職種連携を学ぶことができ、優れた取り組みと評価できる。

教育内容はDP、カリキュラム・ポリシー（以下、CPとする）に基づいて設定され、具体的な到達目標と複数の評価方法が示され、ルーブリック評価を採用するなど公平性の担保に取り組んでいる。学生への支援としては、教員によるチューター制度を設け、学生の学修を組織的に支援する体制があり、特色ある学習支援として評価できる。また、学務システム「MORIPA」を介して教員のフィードバックを得るシステムや、ラーニング・コモンズの利用、「もりもりひろば」といった大学の地域貢献活動への参画などを通して学生の能動的な学習が促されている点は、優れた取り組みと評価できる。

教育課程の評価の1つとして、科目ごとに学生および教員による授業評価アンケートが実施され、その結果を「MORIPA」を通じて双方にフィードバックし、全学的な授業改善が図られている。2021年度にDPの達成を評価するアセスメント・ポリシーが策定され、分析結果を基に教育内容の改善につなげる体制が作られた。

入学者選抜は、アドミッション・ポリシー（以下、APとする）に基づいて実施されており、関連部署の連携により選抜方法の妥当性を検討し、入学者選抜試験の改善を図っている。

一方で、検討を要する課題も見受けられる。看護学科独自の概念であるヒューマンケアリングの意味とDPとの関連が不明瞭であることから、「ヒューマンケアリング」の考え方を明文化し、教育の根幹を成す教育目的とDPの整合性を図るためさらなる検討が必要である。また、「ヒューマンケアリング」の醸成を促す科目との関連を明示する検討が望まれる。また、教員組織と教員の能力の確保という観点から、大学組織が求める人材像やその適正さの確保ならびに人事の透明性を示すものとして、看護学科長の選考基準を提示されることが望まれる。実習に関しては、実習中の事故・インシデントにハラスメントを含めているが、ハラスメントは、傷害・損害・交通事故とは問題の性質と対応が異なることから対応を区別し、具体的に実習におけるハラスメント予防対策を検討することが望まれる。教育目標の達成に関しては、DPの達成度を多角的に検証する指標や方法について検討が望まれる。入学者選抜については、公平さおよび公正さに責任をもって点検・評価する組織体制づくりとその可視化のための検討が望まれる。

今後は、課題を改善・解決するとともに、特色ある取組みをさらに伸長・進展させ、看護学教育を発展させていくことを期待する。